

第12回草津市総合計画策定委員会概要		
日 時	平成21年9月18日（金）9時00分～11時30分	
会 場	庁議室	
出席者	橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、加藤委員、北川委員、田内委員、勇委員、西村委員、善利委員、中村好委員、片岡委員、岸本委員、上寺委員、平井委員、田村委員、森委員、前田委員代理	

1. 開会

2. 議事

1) 総合計画の基本構想（案）について

事務局から説明

《意見等》

- ・資料2の10ページの「商工観光」ところで、「工業の振興」の次に「商業の振興」となっているが、基本構想では商業が先になっている。整合する必要があるのではないかな。
- ・基本構想の修正（案）の8ページに「スリムな市役所を目指す」とあるが、「スリム」の表現は、自分には関わりのないところは全て削ぎ落とすようなイメージであるが、これで良いのか。
- ・議会の提言では「小さな市役所」という表現になっており、「小さな政府」という言葉がよく使われた時があり、今回はそれと同じように感じてもらっている。やはり、出来るだけ無駄を省いていこうということからこの表現になった。この表現をどうするか。これに代わる良い表現があれば意見を出してほしい。
- ・右肩上がりの社会の時には、住民の様々な要望を全て受け入れて大きくなっていった。サービスが何でも提供していける時代だった。しかし、右肩下がりとなると、市民と行政が協働していく必要がある。地域でできること、行政ができることを見直す必要がある。地域分権が進む中での対応した市役所になっていく必要がある。
- ・政府は地方分権による権限移譲や民営化という中での小さな政府、これがそのまま市役所に当てはめるといったら、国と市では違うのではないかな。
- ・国からの権限移譲を地域が責任を持ってやること。市としては、地域へ権限を渡し、そして自主的なまちづくりをしてもらうというイメージである。
- 効率的な市役所が求められているのだろうということ。
- ・市役所だけが地域経営をする訳ではない。協働でまとめて良いのかどうか。
- ・「スリム」の意味は何か。誤解を与えないために、意味を明確にしておくべき。
- ・こういう言葉を入れるのならば、前段で位置づけしながらの方が良いのではないかな。「持続可能で確かな地域経営を行う市役所を目指すため」などで良いのではないかな。
- 提言の中では、財政難によりサービスをカットして、それを市民団体・ボランティア活動に移行していくとはっきり書いており難しいところがある。
- ・もう1点あります、提言では協働のまちづくり指針に基づくまちづくり協議会を立ち上げるよう支援をするということで、かなり拘った形の提言となっていますが、ここについては、組織

づくりという表現にしました。

- ・他のボランティア組織や様々な組織もある、地域組織の新しい形作りなどにはどうか。
- ・資料2の2ページに「学校施設の整備」とあるが、「教育環境の整備」の方が良いのではないか。また、教育委員会で教育振興基本計画を策定しているが、リーディングプロジェクトの元気アップの中に、子どもが伸びやかに育つまちにするとあり、教育委員会では「子どもが育つ教育のまち」という表現となっている。ただこれは保育の関係もありますので、そういうテーマになるのかなということですけども。教育委員会の方は「子どもが育つ教育のまち」「出会いと学びのまち、草津」という言い方で生涯学習も含めてありますので、総合計画と内容が違うという指摘をされた場合に困りますので、ご理解をいただきたい。

2) 基本計画（素案）について

- ・地域経営の方針（素案）について
- ・分野別の計画・行財政マネジメント（素案）について

事務局から説明

《意見等》

- ・市民文化の表現がわかりにくい。例えば、「シビックプライド」のように普段使用しない言葉が書いている。
- ・解説を付けてはどうか。
- ・資料5の1ページに「公」の領域の広がりへの対応をみると、現実には地域あつての自治活動が担ってきた部分もたくさんあると思いますので、流れは確かにここ10年から15年の間、NPOの動きが目立っているが、それ以前からずっと続けてこられた地域の活動を全く触れないのはいかがであらうか。これらも公共公益的な役割を担ってもらうものですので、例えば、他方の次に「従来からの地域での自治活動をはじめ」または「地域コミュニティ活動をはじめ」のように、地域コミュニティの活動を位置づけてほしい。

- ・リーディングプロジェクト（素案）について

事務局から説明

《意見等》

- ・全体的には見やすくなった。9ページに「大展開」や「大転換」とあるが、これは所管部から提案があったのか。また、草津川廃川敷地利活用が「稼働」となっているが、活用ではないのか。さらに、11ページのプロジェクト2の概要が「世界有数の学習資源に恵まれた地域の特性」と前回からなぜ変わったのか。「世界有数」ではなく「地域の資源を最大限活かした」であれば理解できるが。
- 世界的に事業を実施する財団法人 国際湖沼環境委員会（ILEC）などもありますので。
- ・6ページの「市民自治のバージョン・アップ」ですが、「推進」や「発展」にはどうか。どうしてもこの表現にする必要があるのか。
- ・10ページにある「“まちなか”の利便性・価値のアップ」について、これは「価値」という表現で良いのか。「活力」ではどうか。

- ・ 6ページのプロジェクト3に「“新しい段階”の市民自治に目覚めるまちになる」とあるが、「目覚める」という表現で良いのか。新たな公の領域ということで、市民自治が広がるまちになるようなイメージを持っている。
- ・ 「新しい段階」は主要課題のことであり、基本構想を受けて新しい段階に向かっていくということであろう。
- ・ 各文末が「まちになる」となっているが、わかりにくい。「まち」だけでいいのではないか。
→そのような状態像をイメージしたもの。
- ・ 優先順位を付けているのならば、順番を順位ごとに並べ変えたほうが良い。また、新規のプロジェクトが少ないようである、継続事業のプロジェクトがほとんど。
→優先順位については検討します。事業の中身についても、新規事業があれば各部から出していきたい。
- ・ 3ページのうるおいのプロジェクト2に「いちばん学べる・行動できる」とあるが、「いちばん」という表現で良いのか。「いっぱい」ではどうか。

—以 上—